阿里山の黄道光 (1)

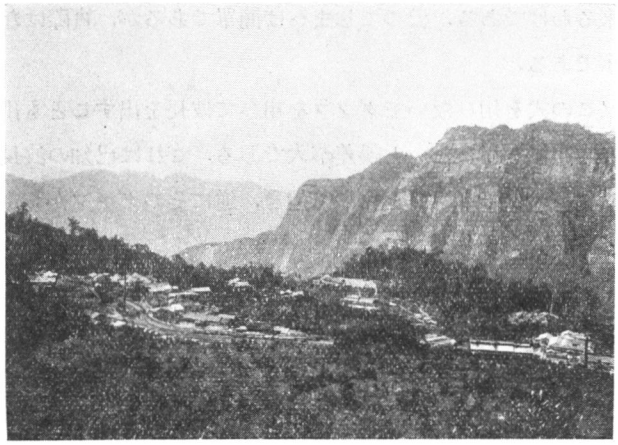
本田　實

阿里山上に於て南の國の黄道光をみるべく，日濠觀測の時期をめざして山本先生の命を受けて神戸を船出したのは，内地も未だ殘暑きびしい８月31日だつた．大阪商船の蓬萊丸へのつて遠い南の國へ旅立つた．12時20分出帆．美しい繪の如き瀬戸内海を船はすべつて夕方もう高松の沖合を通つてゐた．夜滿月近い美しい月をデツキにながめて，少々センチメンタルになりそうだつた．翌9月1日6時門司着．12時05分出帆いよいよ臺灣へ向つた．

玄海灘もおだやかで知らない間に過ぎて，夜20時船は，東經128°52′，北緯33°18′の所を進んでゐた．

明くれば9月2日今日は一日中何もみえない．見えるのは時々とぶ飛魚と果しなくつゞく大海原，正午の船の位置．東經125°48′，北緯30°11′空は午後より少し曇りはじめ，夕方から少し時化はじめた．船は左右へぐらぐらとゆれる．始めての船旅の私にはかなり苦しかつた．

9月3日船は昨夕からの颱風をさけて，ぐつと大廻りをしたらしい．でその時間を取り返すべく非常な速力で走つてゐる．



阿里山の街の全景

アジンコート島が見えたのは10時頃だつた．その頃私は時計をくるくると廻して１時間違ふ西部標準時に合せた．いつも使ひなれてゐる中標に別れる氣持は一寸變

だつた．13時基隆岸壁着．上陸花山臺中出張所の松本氏に彰化着の時間を打電して，14時40分車中の人となる．臺灣は未だ非常に暑い．21時彰化着．松本氏に迎へられ直に臺中へ引き返す．

聞けば松本氏は，臺中高女より，彰化高女へ御榮轉になり明日がその御赴任だそうだ．で臺中のお家はお引越で非常にお忙しく實際恐縮した．

9月4日．松本氏の御赴任に先立つて9時臺中發，彰化へ至り，夕方まで彰化溫泉(人工)にて時間を消し，夕方松本氏に迎へられ，新しい松本氏のお家へ行く．

9月5日．松本氏に送られて，彰化の驛へゆく．午前3時頃だ．3時35分車中の人となる．5時36分嘉義驛着．外の雨の音をきゝながら，7時50分發の阿里山行きの列車の發車をまつ．7時50分發小さなマツチ箱のやうな客車の人となり，阿里山へ向ふ．途中外ははげしい雨となり，且つ濃霧がかゝり景色はみることが出來なかつた．おびたゞしいトンネルをくゞつて14時35分阿里山驛着．伊東高山觀測所主任に迎へられて觀測所へ登る．觀測所は，村より約200米高い万万山と云ふ山の上にありペンキの色も美しい箱のやうな建物だ．觀測所の一室を拜借してやつと落付く．

阿里山は流石に高山(海拔2400米)ブルブルと身ぶるいするほど寒く，且つ天は珍客をもてなす爲か雹さへパラパラと降つた．

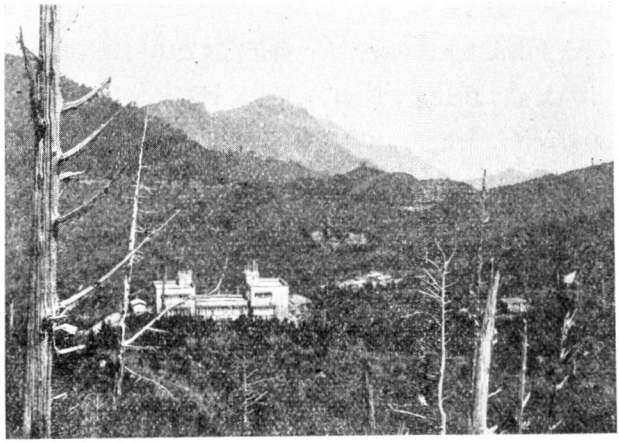
阿里山の天候を觀測所で聞くと，阿里山の天候は非常にはつきりしてゐて，10時頃まではたいてい良く晴れてゐるが，その頃より曇りはじめ，12時頃から濃霧が發生し，13時頃から雨となり，21時頃まで續き，22時頃から又晴れて來るのだそうだ．後で滯在中の天候を考へると實際その通りだつた．1日中快晴と云ふ日は絶對になく，必ず正午頃には濃霧が發生して紅檜の大木の梢を渡り，杉と檜の植林の間をぬけて上へ上へと上昇してゐた．

西天はこの通り天候が惡い．東天には今月がゐる．結局觀測が出來そうになかつたが，9月9日夕，西天の黄道光を雲の間にみた．始めてみる阿里山の黄道光！　流石に南國明るい“1.0×C”の明るさをもつてゐた．

西天としては月が明るくなるまでに結局4回取つた．たいてい“1.0×C”の明るさであつた．

13日の曉天より月が東天になくなつたので，曉天の觀測をはじめた．

日濠觀測の時間には，臺灣では時間が早すぎる．はるかに東天新高山の上にやうやく頭部を出すか出さないかと云ふ頃だ．しかたなく光帶のみ觀測する．南國の光帶に對する期待があまりに大きかつたがためか，餘りに淡いやうな氣がした．之だつたら內地の方が見やすく且つ明るいと思ふ位の<1.0×A 位だつた．



阿里山觀測所附近の景

其後東天の觀測は 1^h45^m—2^h15^m に觀測し，スケツチは2時の約束の時間に取り，それから 2^h45^m—3^h15^m で三時に 3^h45^m—4^h30^m で4時と4時15分頃か20分頃に取つた．（未完）

ブラジルより

謹啓　時下愈〻御淸祥の段奉大賀候陳者所員大窪文秀儀山成慶二氏御夫妻の御媒酌にてノロエステ變更線グワラヽツペス大塚淺次郎氏次女淸子氏と豫て婚約中の處本日大塚淺次郎氏宅にて結婚式擧行仕り候

就ては今後一層の御引立と御鞭韃を賜はり度御願ひ申上候

追而アリアンサ移住地に於て御披露申上ぐ可き筈のところ本年は當地に於て不幸續發し謹愼中にて本人の希望により御遠慮申上候

右御通知申上候　謹言

昭和11年8月22日

東　　京　栗原　正

アリアンサ栗原研究所　神屋信一